

航空宇宙工学専攻修士課程の履修上の注意(令和2年度)

航空宇宙工学専攻では、専攻教員による授業科目を適切に履修することによって航空宇宙工学の理解を深めることができます。航空宇宙工学専攻の授業科目に加え、専門性・多様性を深めるために他専攻、他学府の科目、工学府共通科目等を履修することが有用なこともあります。また、本学機械航空工学科航空宇宙工学コース以外の出身の学生は、航空宇宙工学の学習をするため、必要に応じて学部コースの科目を履修することが必要な場合もあります。さらに大学院では、授業以外の研究が非常に重要になってくるので過度の授業科目履修が負担になるような計画は好ましくありません。指導教員とよく相談して履修計画をたててください。

修得すべき単位数について（「学府履修の手引き」5頁の第12条、および12-14頁の機械航空工学専攻群の箇所、さらに「修士課程での履修科目の認定について」の書類参考）

専攻授業科目と関連授業科目（専攻授業科目以外で指導教員が指定する授業科目）をあわせて30単位以上取得し、さらに以下の条件を満足してください。ただし、関連授業科目については、工学府の関連科目等を最大10単位（別紙に注意あり）まで充当することができます。

1. 高等専門科目及び先端科目 20 単位以上
 2. 広域専門科目 3 単位以上
 3. 能力開発特別スクーリング科目 4 単位以上
- 高等専門科目及び先端科目
専攻の高等専門科目および先端科目は時間割に記載されている通常の講義です。
 - 広域専門科目（工学府他専攻の科目で充当できないので注意）
専攻では、学外の講師による特別講義で1科目1単位です。
令和2年度開講予定
推進工学特別講義（東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻 渡辺 紀徳 教授）
強度振動学特別講義（東北大学 大学院工学研究科 岡部 朋永 教授）
誘導制御特別講義（早稲田大学 基幹理工学部機械科学・航空学科 柳尾 朋洋 教授）
宇宙輸送システム工学特別講義（宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 野中 聡 准教授）
宇宙航空研究開発特別講義（宇宙航空研究開発機構
航空技術部門 藤井 啓介 研究領域主幹
航空技術部門 村岡 浩治 セクションリーダー
航空技術部門 松浦 一哲 主任研究開発員
航空技術部門 安岡 哲夫 研究開発員）
令和3年度開講予定
流体力学特別講義
熱物理学特別講義
飛行力学特別講義
宇宙航行システム工学特別講義
宇宙航空研究開発特別講義
 - 能力開発特別スクーリング科目（工学府他専攻の科目で充当できないので注意）
航空宇宙工学専攻では、「航空宇宙工学演習Ⅰ、Ⅱ」あるいは「航空宇宙工学実験」の科目で、実質的には所属研究室で行っているゼミ・演習、または実験により指導教員から1科目通年で2単位として単位認定されます。

特例：航空宇宙工学コース以外の出身者に対しては、指導教員の判断・承認により航空宇宙工学コースの学部科目を関連授業科目（分類なし）として履修させることが可能です。ただし、修了取得単位数への加算は6単位が上限です。

諸注意事項

1. 航空宇宙工学専攻を構成する研究室のうち 3 研究室は、応用力学研究所に所属する教員による協力研究室です。応用力学研究所は筑紫地区に位置し、協力研究室の教員の授業は筑紫地区で開講される講義もあります。そのような講義を履修希望の学生は、各自、筑紫地区の応用力学研究所へ移動して履修してください。
2. 修士論文中間試問は M1 の 1～2 月頃と M2 の 7～8 月頃に実施予定であり、M2 の最後に修士論文最終試問があります。

履修計画について

冒頭に記載したように、大学院では授業以外の研究が非常に重要になってくるので過度の授業科目履修が負担になるような計画は好ましくありません。そのため、本学航空宇宙工学コース以外の出身者に対する学部講義の特例はもちろん、航空宇宙工学コース出身者も「学府履修の手引き」および「修士課程での履修科目の認定について」の書類を参考に、必ず指導教員とよく相談して履修計画をたててください。